



# 大砂土小だより

学校教育目標「自ら学び、考えて行動する児童の育成」  
～ 認め合い、学び合い、共に育つ ～

<目指す児童像>

かしこい子(知) 明るい子(徳) たくましい子(体)

コミュニケーションを図ることにより、

互いを認め、高め合い、ともに伸びる子

TEL 663-7005

FAX 663-9886

大砂土小学校 ホームページアドレス <http://osato-e.saitama-city.ed.jp/>

メールアドレス [osato-e@saitama-city.ed.jp](mailto:osato-e@saitama-city.ed.jp)

平成29年12月1日 第8号

## 「啐啄同時」

校長 書上 敦志



先日、PTA教育講演会で、保護者の皆様に直接お話をさせていただける機会を得ました。その中で、一つの言葉を引用しました。『啐啄同時(そったくどうじ)』です。

この言葉は、以前大変お世話になった方から教わりました。碧巖録(へきがんろく)に残る禅の言葉で、次のような意味があります。

『啐(そつ)』…雛が卵から生まれる時に、卵の内側からくちばしでコツコツと殻をつついて音を立てる行為、『啄(たく)』…母鳥はそれに応えるかのように外から殻をついばんで割る行為。この『啐』と『啄』がまさに同時に、最も大切な時に行われることを表した『啐啄同時』。「機を得て兩者相応じる得難いよい時機」(広辞苑) 親鳥の啄が一瞬でも誤ると、中の雛鳥の命が危ない。卵から生まれるのが、早すぎたり遅すぎたりすると、雛が死んでしまう。『啐』と『啄』がまさに同時でなくてはならないもの。だから、早すぎないよう、遅すぎないよう、感覚を研ぎ澄ませ、雛の準備が整って自ら出ようとする『絶妙なタイミング』に、母鳥が必要な行動(外からついばんで割る)を取るのだそうです。

このことを家庭での子育てや学校での教育活動に置き換えるとどうでしょうか。親や家族の思いと子どもの思い。教師の指導と子どもの学ぶ意欲。子どもの内面から湧き出る意欲を見逃さず、絶妙のタイミングで子どもの背中を押してあげることができたら教育効果を最大限に生かすことができるのではないのでしょうか。

子どものやる気が十分でないときに一方的に押し付けたり、その子にとって必要のない支援をし過ぎたりしていないのでしょうか。反対に、子どもが興味ややる気をもったときに一方的に跳ね返したり、忙しいからと後回しにしたりしていないのでしょうか。

「そういえばこの間…」…「もういい!」なんてことはありませんか。

親として、教師として、日々成長する子どもたちの様子をよく見取って、子どものやる気を逸さないように、伸びる芽を摘まないように心掛けたいものです。



さて、12月は2学期のまとめの時期。新年に立てた目標を振り返り評価するとともに、新たな1年の始まりに、新たな目標を立て希望あふれるスタートとなるよう、子どもたちのさらなる成長を見守りましょう。大砂土っ子一人ひとりの笑顔のために、教職員一同努めてまいります。保護者、地域の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

けやきの森もすっかり色づき、私たちの目を楽しませてくれています。そこに集う小鳥たちも親鳥からいただいた命を謳歌しています。小春日和の青空の下、思う存分に羽を広げて飛び回っています。大砂土小の校庭に広がるのぞみの空を…大砂土っ子たちのように。

【学校教育ビジョン:「夢いっぱい 笑顔いっぱい ひとみ輝く大砂土っ子」の育成】